



「加古川の綿 絶賛！」
「綿柎開」（わたのはなひらく）綿花（花ではない）
がのぞく時季が到来しました！

昨年 12 月 16 日、岡田康弘加古川市長が安倍首相を訪問した新聞記事が掲載されました。その際、安倍首相から「加古川の綿はすばらしい」という評価をいただき、改めて地場産業である繊維産業のすばらしさを再確認しました。



加古川の綿作は有名で、江戸時代、姫路藩家老河合寸翁が姫路藩の多大なる債務を完済する財政再建に大いに貢献したことは有名です。姫路藩の木綿は「姫玉」と呼ばれ、薄地で柔らかく、色が白い高品質木綿として珍重されました。

明治 24 年（1891）には、志方町に「稲岡工業」が創業されます。明治・大正・昭和時代を通じて、稲岡タオルは「イカリタオル」のブランドとして、全国的に有名となり、今治・泉州と並んで日本三大タオル産地といわれるまでの国内シェアを誇った時期もありました。

しかし、2012 年、121 年間（明治 24 年操業開始）続いた操業に終わりを告げることになりました。現在、創業当初からの資料類が段ボール箱約 600 箱分残されており、「稲岡工業株式会社文書保存会」が設立され、ボランティアによる整理・保存活動が進められています。私も参加しましたが、中国に輸出されていた時の伝票や偽の商票などを生に見る機会を得ました。

もう一つ綿関係の商品というと、靴下があります。兵庫県は靴下の一大産地として有名で、奈良県に続いて第 2 位の国内シェアを誇ります。その中であって、加古川を中心に国内生産量の 4 分の 1 を占めます。

JR 加古川駅南のベルデモール加古川にアンテナショップ「かこがわ工房 Kips」があり、竹炭を入れた消臭・抗菌効果のある靴下「竹紀行」などの品揃えをして注目されています。

加古川の長きにわたる地場産業を知り、応援していきたいですね。

ぶらり加古川 第 34 号

平成 28 年 8 月